

たなかしんご
田中真吾展
踪跡

会期 = 2010年11月1日(月) - 11月24日(水)

休館日 = 日曜・祝日

開館時間 = 10:00 AM ~ 18:00 PM 入場無料

アーティスト・トーク開催 = 初日 11月1日(月) 6:00 ~ 7:00pm

会場 = INAX ギャラリー2

東京都中央区京橋 3-6-18 INAX:GINZA2F

TEL03-5250-6530 FAX03-5250-6549

企画・制作 = 株式会社INAX

INAX の文化活動ホームページアドレス <http://www.inax.co.jp/culture/>



trans(cube #4) / 画用紙・パネル / 140 x 140 x 140 / 2009 年

- * 本展告知以外での使用、転載を禁じます。
- * 容量が足りない場合および、その他の写真については、担当者までお問合せください。

【メール】 e.ohashi@i2.inax.co.jp 【担当】 大橋恵美

次回予告

下平千夏展 12月1日(水) ~ 12月25日(土) インスタレーション

INAXギャラリー2は、**田中真吾展 踪跡** (2010年11月1日～11月24日)を開催します。

田中真吾は火で紙を焼いた作品を制作しています。幾重にも重ねたまっ白な紙に炎を走らせると、焼けた亀裂から炭化した紙が次々とまくれあがって盛り上がり、墨色の灰の襞となります。白と黒のコントラストは涼やかで、しかし炎の記憶を秘めて熱を感じさせます。それは黒い花に残る傷跡のような揺らめきの感触です。

人類の誕生から、火は闇に光を与える文明の象徴として常に私たちの身近にありました。時としてそれは本能的な恐怖である一方、人を惹きつけ、魅了してやまない存在でもあります。炎を見つめる時の、止め処もない心象風景。その根源的に湧き上がる心の動きを、田中は火が持っている性質を引き出しながらかきわめてシンプルなかたちで表現し続けています。

「trans」シリーズでは、白い紙を何枚も重ねた支持体を燃やし、火がものを灰へ変容させる力、トランスレーションをテーマにしました。支持体は平面のみならず、キューブ型の立体へも展開します。有機的な火のかたちが完成された幾何学形態をゆらがせ、立体の奥から炎が立ち昇ったかのようです。「heat」ではパネルの上の漆喰、「drawing」では画用紙を。ただ燃やすという行為の中で何が見えてくるのか様々にアプローチしてきました。

作家は27歳。大学では洋画を専攻していましたが、三回生の時から現在に続く火を用いた作品の制作をはじめました。関西を中心に発表を重ね、今展が東京での初個展になります。

白い空間に燃え広がる圧倒的な炎の痕跡を、どうぞ会場でご覧ください。

【田中真吾プロフィール】

1983 大阪府生まれ

2008 京都精華大学大学院芸術研究科修了

【個展】

2009「灯に照らされた闇」studio90 / 京都

「夢と現」eN arts / 京都

2008「臉をつたう」shin-bi / 京都

「ほどける距離」ART SPACE・NIJI / 京都

2004「文明の二重奏」CITY ギャラリー / 大阪

【グループ展】

2010「BIWAKO BIENNALE 2010」 / 近江八幡市

2009「ハコトリ」 / 函館市

2008「Black State」studioJ / 大阪

「Art Court Frontier 2008 #6」アートコートギャラリー / 大阪

2005「目の前を、聞く」京都精華大学ギャラリーフロール / 京都